

宇都宮市長 佐藤 栄一 宛

令和 8 年 3 月 2 日

シニア生まれ変わりPJ

団体名 会いてイ (IT) なかまの会

団体の所在地

代表者役職名 会長

代表者氏名 藍原 安吉

事業報告書

1 コース	令和7年度 宇都宮市市民活動助成金交付事業 支援コース：スタート支援 ステップアップ支援 連携支援
2 事業名	シニア生まれ変わりPJ 会いてイ(IT)なかまの会
3 事業実施期間	令和 7 年 6 月 24 日 ~ 令和 8 年 3 月 2 日
4 共催、後援団体等	○ある (河内:まち協・自治会・社協・民生児童協など) ない
5 交付要件	
6 事業実績 (1) 事業内容	1) レベル別講座の実施支援 (内 容)カリキュラムの検討～再編集とフォロー体制(手 段) * 支援員ボランティア員研修会 (12 名 月/1回)と募集実施 <u>「なんでも相談会」6月より</u> 市民センター 原則月 2 回 実施済:11 回(延べ相談者 84 名) 実績:6月(2回)7月(2回)8月(1回)9月(1回)10月(1回)11月(2回)12月(2回) ※市社協主催の<u>エールUまるごと相談</u> 実績:1月(1回) (スマホ操作受付～3 人で相談対応実施) 2)『地区社会福祉協議会』と連携 (内 容)地域の住民や団体がスマホ教室に参加しやすい内容と広報のしくみづくり。 (手 段)<u>ほのほのスマホ勉強会</u> 実施済:①参加者 156名(1 月現在) <u>実績</u>:6月(参加者 20 名)7月(参加者 18 名)8月(参加者 21 名) 9月(参加者 20 名)10月(参加者 20 名)11月(参加者 18 名) 12月(参加者 19 名)1 月(参加者 20 名) 3)世代間交流プログラムの推進 (内 容)若年層が関与できるようイベントやサポーター育成プログラムの実施。 (手 段)対普及団体イベント・セミナー 一般スマホ講習等→スマホ教室に参加 (支援スタッフ) ・「宮デジサポーター交流会」実施済:参加者者 24 名 10/25 ・JA 婦人部「ライフアップセミナー」:参加者者 26 名 11/19 ・那須烏山市自治会連合「スマホのより社会参加」80 名 1/16 4)追加実施事項 ① 定例(月1回)ワーキング会 :市本庁にて ② 市高齢者デジタルデバッド対策 『宮デジサポーター』養成セミナー(6・9月) ③ 宇都宮 FM 局「宮ラジ」“地域もりあげ隊”呼びかけ「会いてイなかまの会」の活動 <u>実績</u>:①8回1週月 ②4 回 6/28・7/5・9/20・9/27 ③1 回 8/4 (1 月現在)
①参加者間の スキル差 スキルレベルに応 じた講座	
②地域協力体制 の再構築 (自治会・社会福祉 団体と協働)	
③世代間の意識差	
④会のルーティン 市との協働	

(2) 事業実施により得られた成果	<u>市との協議(業者・宮デジサポーターとの連携)</u> 1)「宮デジサポーター」の活動(実績は120名達成) 「宮デジサポーター養成」セミナー[市デジタル政策課主催] ⇒市実施計画に基づいて計画達成 [宮デジメイト]による課題検討 ⇒認定者なかまの意見交換交流で一層の意識高揚 2)「なんでも相談会」+エールUまるごと相談 市民センターにて相談会[かわち市民センター協働]と河内福祉センターにて ⇒相談者の喜びと期待・支援者側は大きな手応えを得る
(3) 助成金を受けたことによる効果 ③優先順位で決める	<u>有効な財源が活動の実施に下記のように大きく役立った。</u> 主な成果『スマホ便利帳』の印刷配布 ④. 使用料(機材)・交通費は自前増設分や車両便乗等で削減。 ⑤.印刷製本の増加と個別相談会が盛況で食料費大幅増加 ⇒ネット利用の印刷有効活用。 中古スマホの貸し出し可能 * 公金活用の認識が取り組みに意識UP。 * 計画的予算配分が活動計画に反映。→受講者の負担なし可能 紙ベースでも配布できた。 * 機材購入も行ったが、リース・借受等も活用できた。
(4) 事業実施に係る課題	前年から共通課題の進捗 ①人材の人数[横這い一課題継続]→宮デジサポーター員の協力～活用 ②受講者の知識格差 →高齢者初心者に集中強化 ・学習進め方の問題 ③予算管理 ・印刷消耗代を抑えるには どうか。→必要経費 ・支援者食料(飲料・弁当代等)は必要不可欠だが予算圧迫。【継続課題】 ・活動拡大での備品機材強化が必要 ④協賛金確保 ・協賛金が組織上で欠金が発生。→講習会収益で今後もカバー
(5) 課題の対応策	→①市との協議(業者・宮デジサポーターとの連携)120名の活動の有効化 ・交流会を通じ組織化とレベルアップを今後も進める。【継続実施】 ⇒検索手法の取得勉強会 →②高齢者向け講座基本コース実施 ・内容の深化⇒内容単位教室へ →③優先順位で決めていく ・今後もネット手配利用 ⇒テキスト帳票の標準化する。【継続実施】 ・各地域出張ガソリン代の話し合い継続と食料費の検討⇒最低この程度は確保要。 →④実績を再度アピール。⇒認識が徐々に浸透。【継続実施】

まとめとして

- ・市との協働が活動のメインとなる。⇒継続
- ・地区センター・宇都宮市社協でスマホ教室が今後の方向。
- ・「会いてイなかまの会」の人材確保に。

令和7年度

シニア生まれ変わりPJ
会いてイ(IT)なかまの会

事業収支決算書（申請事業に要した経費）

【収入】

（単位：円）

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
市民活動支援助成金	200,000	200,000	0	8/5 市より
日本生命財団助成金	0	50,000	50,000	顕彰として
協賛支援金	10,000	10,000	0	河内民生児童委員協議会より
寄付金	30,000	20,000	△ 10,000	河内社会福祉協議会より
講習会収益金	160,000	121,000	△ 39,000	宇都宮市 宮デジ講師料・市社協スマホ教室講師料より
前年度繰越金	352	352	0	
合 計	400,352	401,352	1,000	

【支出】

（ ）内には、助成金をあてた金額。

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
報償費	20,000 (10,000)	0 0	△ 20,000	外部講師 なし
備品購入費	90,000 (45,000)	99,465 (60,000)	9,465	PC関連機器・研修用スマホ・他関連機材費等
使用料	20,000 (10,000)	6,090 (5,000)	△ 13,910	会議/ヘルプデスク会場費等
旅費交通費	10,000 (5,000)	9,900 (5,000)	△ 100	協力者交通費・パーキング実費等
消耗品費	130,000 (80,000)	121,361 (90,000)	△ 8,639	コピー・用紙・インク料等/衛生用品・ボードサインペン・他文具料(講座用)等
印刷製本費	50,000 (30,000)	65,060 (15,000)	15,060	日本生命財団～便利手帳一部・教材・チラシなど(財団5万で便利帳に充当)
通信連絡費	40,000 (20,000)	44,954 (25,000)	4,954	通信料(WiFiルーター)等
食料費	40,352 (0)	54,120 (0)	13,768	講師・支援ボランティア・スタッフの食料代など、特に「なんでも相談会」に終日対応に伴い増額。
合 計	400,352 (200,000)	400,950 (200,000)	598	

収入合計 401,352
支出合計 400,950
差引残高 △ 402

◎差額は令和8年度事業に繰越とする。

令和8年2月28日

藍原 安吉
黒崎 達夫